市民句会報

令和四年九月二十八日

オーテピア高知図書館（高知市民図書館）　○印　味元昭次選　順不同

○賢治忌や心静かに用済ます
ブラウスに露草挿したる穴水駅
いつの間に玄関居座る蟋蟀や
富子

○鳴く虫のそこは産廃処分場
○爽やかにワイン工場の試飲かな
合宿の朝のジョギング蛍草
千代

露草を一つ手折（たお）りて靴ぬらし
古寺や昼の虫鳴く薬草園
ギス鳴かす店の主人のしたり顔
文子

国葬のノーの声多し虫時雨
露草や青空の青より深し
今朝の秋知らぬ人とも声交わす
農子

○露草の庭の売買契約書
○秋夕焼思い出せない妣の声
一人の夜隣家の虫の良く鳴けり
初江

○虫の音や数多の文を読み返し
○露草の灯り囲みし無縁堂
○腐葉土を掬う夫婦や背にトンボ
富江

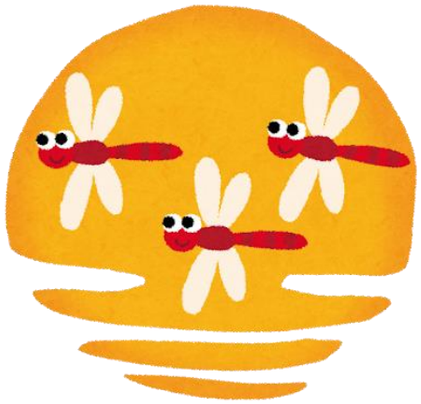
蛍草高くて立派牧野像
園庭に園児のスキップ秋日和
父に酒母にまんじゅう墓参
美貴

○秋の暮こぼす躓く生きている
○蛇穴に入らずぞろぞろ国葬儀
○長き夜のスマホひとつで事足りる
弘

露草や百年の膝くるま椅子
敬老日母に祝状岸田総理
鈴虫や山気の闇をひと頻（しき）り
蒸子

○風なぎて闇やはらかしちちろ鳴く
風鈴の初秋の詩（うた）を奏でをり
天高し胃袋の底広くなり
郁子

○すっと来てすっと帰るね彼岸花
国葬の賛否を聞くやさるすべり
桂月忌太平洋が酒になり
酔花



○十六の涙曇りや蛍草
国葬や立ち明かし居り曼殊沙華
八頭親芋子芋芋畑
えり

○鳳仙花親にそむきし子は一人
秋茄子や草にかくれて二つ三つ
野分あとほうき片手に小半日
志津子

味元　昭次　作品

四十年勤めあげたるかまど馬
鬼の子の風に吹かるる祖国かな
露草に訊く考のこと妣のこと

★次回市民句会
【開催日時】
令和四年十月二十六日（水）
午後一時十五分～午後四時（予定）
【場所】
オーテピア４階　研修室
どなたでも自由にご参加いただけます